

## 新之助情報 No. 4

# 2回目穂肥は確実に施用！ いもち病を見つけたら直ちに防除！

### 1 現在の生育状況（7月29日調査）

指標値と比べ、草丈「並」、茎数「並」、葉数「やや遅」、葉色「やや淡」

	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年値	5月17日	75	440	13.1	33.0
指標値	—	75	450	13.6	34.0
指標値比・差	—	100%	98%	-0.5	-1.0

※本年値は普及センター調査5ほ場の平均値。施肥は全て分施肥

### 2 出穂期予測と2回目穂肥時期・施用量のめやす（分施肥の場合）

予想 出穂期	2回目穂肥時期 (出穂前日数)	穂肥2回目の葉色と施用窒素量めやす (上段 SPAD 値、下段施用窒素量 kg/10a)			
8/12	7/31~8/2 (12~10日)	32.0 未満	32.0~ 34.5未満	34.5~ 37.0未満	37.0 以上
		1.5	1.0	0.5	施用しない

### 3 登熟期間の高温が予想されるため、追加穂肥の検討

#### (1) 分施肥体系

- ① 出穂期3日前（かつ、2回目の穂肥から1週間以降）に
- ② 止葉の次の葉の葉色（SPAD 値）が 34 未満の場合

[施用量]

- ① 化成肥料を使用する場合・・・1kg/10a 以内
- ② 有機質 100%肥料を使用する場合・・・2kg/10a 以内

#### (2) 基肥一発施肥

出穂期の葉色値（SPAD 値）が 34 を下回ると予想される場合は、出穂 10 日前～3 日前頃に窒素成分で 1.0～1.5kg/10a 追加穂肥を施用する

### 4 水管理

- (1) 出穂期以降は飽水管理を徹底し、出穂 25 日頃まで飽水状態の維持に努める。
- (2) フェーン緊急情報に注意し、フェーン時はあらかじめ湛水し、フェーン後は速やかに水の入れ替えを行う。

### 5 病害虫の対応

- (1) いもち病 ～管内各地で葉いもちの発生を確認！見つけたら直ちに防除～  
ほ場をよく観察し、葉いもちの病斑が見られたら、共同防除を待たず粉剤または液剤で速やかに防除する。  
穂いもちは予防防除を原則として実施する。出穂前に上位葉に病斑が容易に認められる場合は、出穂前と穂揃い期に2回防除する。

#### (2) カメムシ

穂揃い期に薬剤防除する。7月末～8月第2半旬に共同防除によりカメムシ防除が実施されている地域では、「新之助」を対象とした追加の防除は不要。

- ◎ 農薬の使用にあたっては、ラベルに記載の使用基準や注意事項等をよく確認し、遵守しましょう
- ◎ 高温下の農作業は避け、作業時は水分補給をしっかりと行い、熱中症に注意しましょう